懇話会については基金室Webサイトでご覧ください→

TOPICS 01

維持会懇話会レポート

維持会懇話会について

慶應義塾維持会懇話会は2008年より維持会常任委員と維持会奨学生の交流の場として、始まりました。

奨学生にとっては、維持会からの支援を実感でき感謝を直接伝えられる貴重な場となっております。

2023年度は、7月3日（月）三田キャンパスにおいて、対面開催いたしました。70名を超える参加となり、4年ぶりの立食形式で賑やかな懇談の場になりました。

参加者が皆、笑顔で和やかに夢や志をお話したりと、維持会常任委員にとっても、奨学生にとっても、良い時間になりました。

維持会会長からのメッセージ

維持会のはじまりは、1901年慶應義塾で学門を学ぶ人を支援することから歴史を刻んできました。2007年から今の奨学生の形になり、主に地方から出てくる塾生を支援するということで、創設しております。未来の先導者であり、いろんな分野で志をもって活躍される塾生の支援をしたいと、懇親会の前に行われた常任委員会で話をしてきました。

先輩として一言話させていただきたいのですが、「我より古（いにしえ）を作（な）す」という「自我作古（じがさっこ）」という言葉が福澤先生の言葉であります。これは、自分の経験則の考え方にこだわってはいけない、世の中大きく変化しているので、自ら古(いにしえ)となるよう、イノベーティブに挑戦してください、ということを、福澤先生はおっしゃっています。皆様には、福澤精神をもって、これから進んでいっていただけたらと思います。

岩沙弘道 会長

今日は、全国から常任委員が参加して各テーブルに分かれていますので、遠慮なく先輩と話をしていただき、実りのある場になることを願っております。

維持会奨学生代表による御礼の挨拶

維持会奨学金を支えてくださっている維持会の皆様、そして、懇話会を企画してくださったすべての御関係者様に、維持会奨学生を代表して御礼申し上げます。

私は将来、創薬につながる基礎研究に携わりたいと考えております。また、私は理工学部體育會水泳部に所属し、日々の練習に励み、充実した日々を送っております。これもひとえに維持会の皆様からのご支援によって、学費の負担が大幅に軽減され、アルバイトに充てる時間を激減できるおかげであります。維持会の皆様と沢山お話しさせていただきましたことは、私にとって非常に貴重な時間でした。

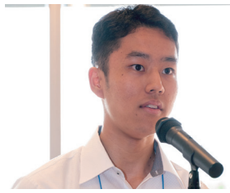
新しいアイデアから新たな社会的価値を生み出せるイノベーティブな研究者になれるよう、維持会の皆様方からのアドバイスを踏まえ、残りの塾生生活を一層有意義なものにしていきます。

薬学部２年（宮崎県出身）

本日はこのような懇話会の場に、招待していただき、ありがとうございました。

実際に維持会を支える方々にお会いしてお礼を伝えたいと思っておりました。皆様と楽しく食事をしながらお話しすることができて、大変うれしく思います。

私は2年時からの専攻で社会学を志望しています。日本を含む先進諸国における、相対的貧困や格差の問題について研究したいと思っています。



慶應義塾は、地方出身者と首都圏の学生がまじりあって、格差社会の縮図のようなところでもあります。私も群馬県出身者として、格差みたいなものを感じます。維持会は、特に地方出身の塾生を支える奨学金としてその役割を果たしていますが、経済的な支援は心の支援と同じだと思います。自分がどういう形で社会に貢献できるのかを考え、様々なことにチャレンジできる4年間にしたいと思います。

文学部１年（群馬県出身）

都道府県別 維持会奨学生採用実績（2007～2023年度累積）

採用実績の詳細は基金室Webサイトでご覧ください→

日本全国また海外出身者にも広く学びの機会を提供しています。

合計:1,670名

北海道	75名	栃木県	46名	石川県	11名	滋賀県	4名	岡山県	32名	佐賀県	10名
青森県	27名	群馬県	58名	福井県	18名	京都府	25名	広島県	37名	長崎県	10名
岩手県	11名	埼玉県	51名	山梨県	20名	大阪府	69名	山口県	23名	熊本県	33名
宮城県	28名	千葉県	37名	長野県	52名	兵庫県	59名	徳島県	10名	大分県	8名
秋田県	10名	東京都	127名	岐阜県	37名	奈良県	33名	香川県	12名	宮崎県	12名
山形県	8名	神奈川県	119名	静岡県	60名	和歌山県	17名	愛媛県	21名	鹿児島県	38名
福島県	30名	新潟県	44名	愛知県	80名	鳥取県	10名	高知県	20名	沖縄県	38名
茨城県	66名	富山県	29名	三重県	22名	島根県	14名	福岡県	43名	海外	26名